

海の野菜生産技術の開発 アグリサイエンスゾーン創出事業 ウスバアオノリ養殖試験

牧野賢治・平野 匠

徳島大学が整備する植物工場，水産研究課が有する海藻養殖研究施設，及び双方が有する海藻養殖技術を融合させることでマリンサイエンスゾーンを構築し，本県の地域に適した高付加価値海藻の生産技術を開発する。

本研究は，海藻養殖が実施されていない阿南市椿泊地先でウスバアオノリ養殖に取り組み，地域における新しい漁業産業として定着できるかを検討した。

材料と方法

養殖試験は，椿泊湾の湾奥（以下「A試験地」と称する）と湾口近く（以下「B試験地」と称する）の2箇所でおこなった（図1）。養殖施設には，1箇所につきノリ網8枚を張り込んだ。平成27年10月14日，椿泊地区の某会社の敷地内に1トンパンライト水槽とエアレーション施設を設置し，その中にノリ網（幅1.8m×長さ20m）10枚と細断されたウスバアオノリ葉体（湿重量約50g）を入れて採苗を開始した。ウスバアオノリの最適な採苗，養殖開始時期を調べるために，採苗時期と養殖施設への張り込み時期をずらした。10月23日，採苗水槽から4枚のノリ網を取り出し，新たにノリ網4枚とウスバアオノリ母藻を入れた。取り出したノリ網をそれぞれ2枚づつ湾奥と湾口近くに張り込んだ。11月2日，採苗水槽から10月14日採苗開始網4枚，10月23日採苗開始網2枚を取り出し，養殖施設1箇所につき10月14日採苗開始網2枚，10月23日採苗開始網1枚を張り込んだ。新たにノリ網2枚とウスバアオノリ母藻を入れた。11月12日，養殖施設1箇所につき10月14日採苗開始網1枚，10月23日採苗開始網1枚，11月2日採苗開始網1枚を張り込んだ。試験地へ網を張り込む時に経過観察をおこない，11月12日以降は，11月20日，12月2日，12月15日，12月25日，1月8日まで計8回実施した。

結果と考察

12月までは，いずれの試験区、試験地においても5mmほどに生長していたが，それ以上は伸びなかった。12月2日，A試験地において，10月14日採苗開始網の10月23日張り込み網18cm，11月2日張り込み網23cm，11月12日張り込み網5cmまでに生長していた。10月23日採苗開始網では，11月2日張り込み網16cm，11月12日張り込み網が5mmであり，11月12日張り込み網は他の試験区に比



図1．試験場所

べて葉長が短かった。12月15日の調査では，10月14日採苗開始網については，10月23日張り込み網12cm，11月2日張り込み網13cm，11月12日張り込み網15cmまでに生長していた。10月23日採苗開始網では，11月2日張り込み網16cm，11月12日張り込み網が15cmであった。11月2日採苗開始網については，採苗不良が原因のため，生長を確認できなかった。12月25日以降の調査では，著しい生長を確認することができなかった。B試験地については，11月2日採苗開始網を除いて，いずれの試験区網も長くても5mm程度までの生長であった。以上の結果から，椿泊地先におけるウスバアオノリ養殖は内湾であればウスバアオノリはある程度生長すること，種網の張り込み時期は10月23日からでも可能であること，収穫期間は，12月からの半月間であることが解った。



図2．A試験地で生長したウスバアオノリ